

平成30年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取り組み(案)	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 個別の教育支援計画の活用の見直しを通して、より効果的なキャリア教育・進路指導の充実を図る。	キャリア支援課 進路指導	個別の教育支援計画を各関係機関との連携をもとに、長期的で一貫した支援を行うことを目的として策定されている。	【満足度指標】 保護者の願いを把握し児童生徒の能力を伸ばすための個別の教育支援計画の活用となっているか、保護者アンケートで評価する。	保護者からの学校評価アンケートに「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	C以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	10月と1月の学校評価アンケートで調査を実施する。
2 地域との繋がり	① 地域と関わる交流活動を推進し、ホームページ等で広報活動を行う。	総務課	・特別支援学校があるということは認知されているが、地域の方が児童生徒と積極的に関わる機会は少ない。	【成果指標】 地域と関わる交流活動の実施回数を調査し評価する。	地域と関わる交流活動の実施回数が学校全体で A：20回以上 B：16～19回 C：11～15回 D：10回以下	C以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	学期ごとに各学部での実施状況を調査する。
	② 地域の特別支援学級の担任等に対して、授業公開や教材教具などを紹介したり研修会を開催したりしてそのニーズに応じた支援を行う。	キャリア支援課 自立支援	・地域の特別支援学級担任は講師や初めての担任などで、何のようにすればよいか不安があり、その実践を積めていないという実態がある。昨年度アンケートによると、珠洲分校に対する期待が高いことが分かった。	【成果指標】 合同学習・研修会に参加した地域の教員が、受けた内容を参考に実践を行った人の割合で評価する。	真似たり参考にしたりして何らかの実践を行った教員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	C以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	各取り組み後、3か月以内にアンケートを行い、全体は年度末に評価する。
3 授業力の向上	① 学部を超えて授業を参観し、参観者によるコメントをもとに小・中・高が連携した授業改善に取り組む。(年3回以上)	教務課	・他学部の授業を参観する機会が少なく、良い授業を行ってもその専門性や技術が浸透していかない。	【満足度指標】 他学部の授業を参観して自分の授業に生かせる、あるいは他学部の参観者からのアドバイスが役立つものである。	他学部の授業や参観者のアドバイスが役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	C以下であれば、取り組み内容及び方法を再検討する。	1月に職員向けにアンケートを実施する。
4 安心安全な学校づくり	① 重複生徒を対象にした避難方法を避難訓練とは別に実施して取り組む。非常時に緊急脱出できるよう避難用滑り台を体験する。	生活支援課 生徒指導	・生徒の実態に即した取り組みが難しい状況にある。重複障害を持つ生徒を想定した避難訓練を体験することで得られる有用感で評価を行う。	【満足度指標】 重複障害を持つ生徒を想定した避難訓練を体験することで得られる有用感で評価を行う。	重複生徒を対象にした避難方法体験及び滑り台避難体験が役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	C以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	各取り組み後、アンケートを行い、全体は年度末に評価する。
5 業務改善に向けた意識改革	① 業務改善シートで効率的な業務の実践に取り組む。	全教員	本校の教職員の時間外勤務は、県平均より少ないが、業務改善を目指し、効率的な勤務に対する意識を促す必要がある。	【成果指標】 業務を改善することでできた業務を改善することで答えた教員の割合で評価する。	各自が業務改善シートを作成する。その結果をもとに、「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	C以下の場合は、取組を再検討する。	前期、後期に改善シートをもとにアンケートをとる。